

大規模豪雨に伴って発生する土砂災害の予測・対策

環境共生科学PG 砂防・森林水文学 寺本行芳

URL <https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/env/agri0049/>

研究の背景および目的

大規模豪雨の発生頻度増加に伴い、毎年のように全国各地で土砂災害が頻発しています。土砂災害は年々、激甚化、複合化しており、国民生活に大きな影響を及ぼしています。

このような土砂災害から人命や居住空間を守るためには、災害の発生を予測し、それを踏まえた適切な防災・減災対策を講じることが重要となります。これらについての研究を行っています。

おもな研究内容

大規模豪雨の増加に伴って、災害が起こりにくい場所、あるいは警戒区域など指定地以外の場所でも土砂災害が発生しています。また、予想もつかないような、あるいは、それほど経験したことのないような形態、大規模な土砂災害も発生しています。このような土砂災害を予測し、適切な対策を講じるためには、災害の実態やその発生に密接に関係している要因を明らかにすることが不可欠となります。土砂災害の発生現場において、実態や要因を明らかにするための研究を行っています。



2025年8月豪雨により始良市（写真左）と霧島市（写真右）で発生した土砂災害

期待される効果・応用分野

大規模豪雨の発生頻度が、今後一層増加することが予想されています。このような豪雨に伴う土砂災害に対する予測・対策手法を検討することが喫緊の課題となっています。この課題に関する研究の進展によって、国民生活がより安心・安全なものになると考えます。